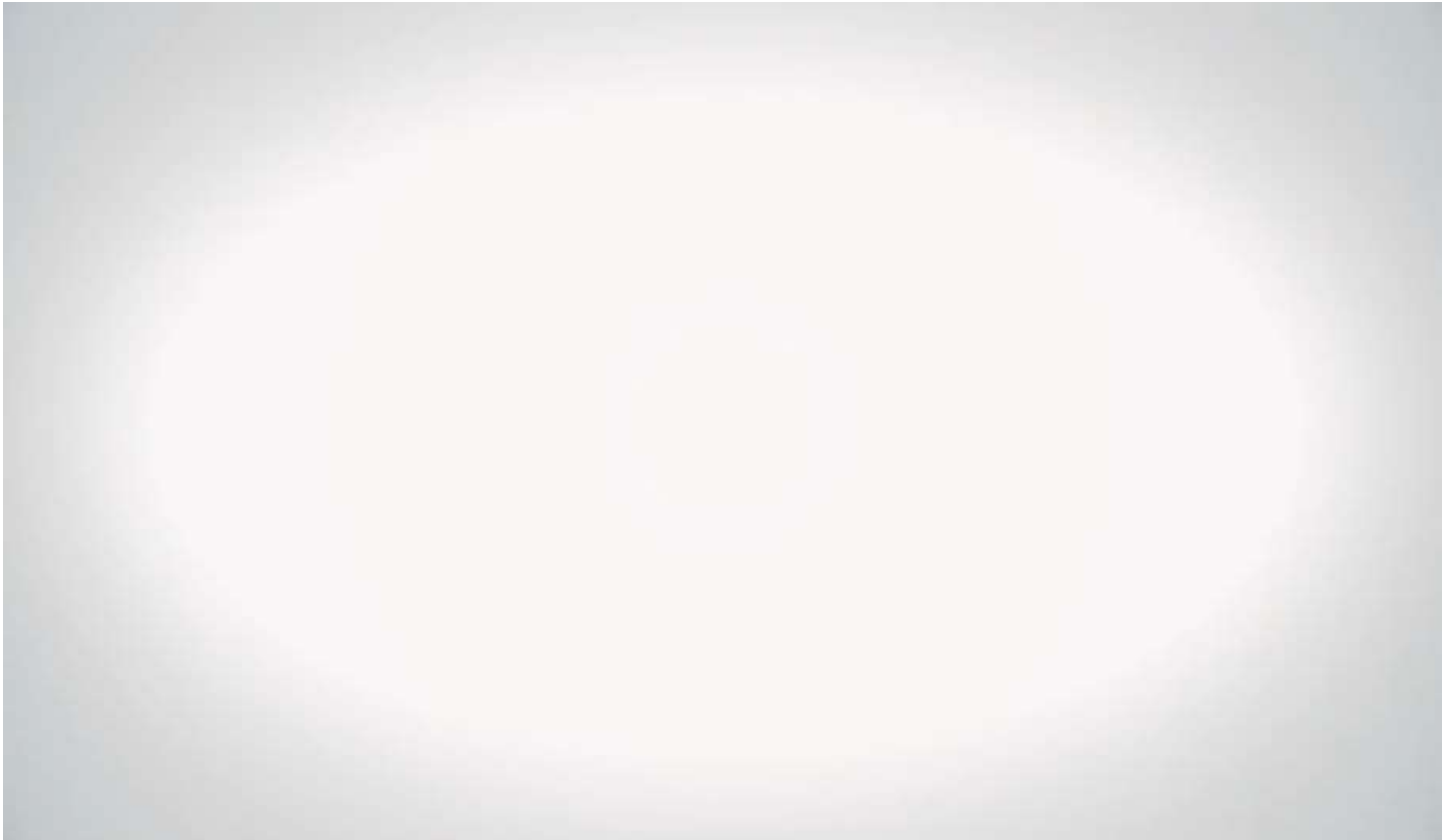


「子育てしやすい街伊那市における 地域連携 やまほいく」



qrコード子育て映像

伊那市 保健福祉部 子育て支援課 副技幹
子育てコーディネーター 小名木 伸枝



長野県伊那市の現状

「二つのアルプスに抱かれた自然共生都市」

平成18年3月31日に伊那市・高遠町・長谷村が合併して新「伊那市」として誕生。

長野県の南部に位置し、南アルプスと中央アルプスの二つのアルプスに抱かれ、市の中央部を天竜川と三峰川が流れる豊かな自然と歴史・文化が育まれた自然共生都市。

人口 68,409人

(2018.7.1現在)



桜の名所
高遠城址公園



上伊那地域の中心都市



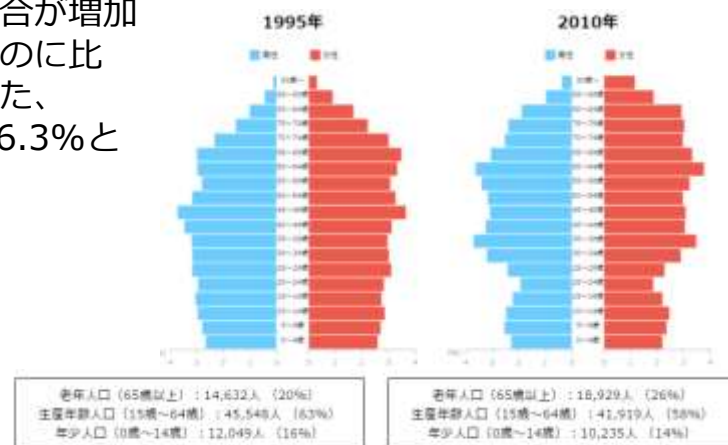
南アルプス・仙丈ヶ岳



<伊那市の人口構成>

伊那市の人口構成は年々、年少人口（15歳未満）割合及び生産年齢人口（15歳以上65歳未満）割合が減少し、その一方で老年人口（65歳以上）割合が増加している。人口ピラミッドを見ると1995年が「釣鐘型」となっているのに比べ、2010年は下（年少人口）がくびれた「つぼ型」となっている。また、2015年の国勢調査においても、年少人口が13.6%、生産年齢人口が56.3%と減少する一方、老年人口の割合が30.1%と増加している。

伊那市の人口ピラミッド



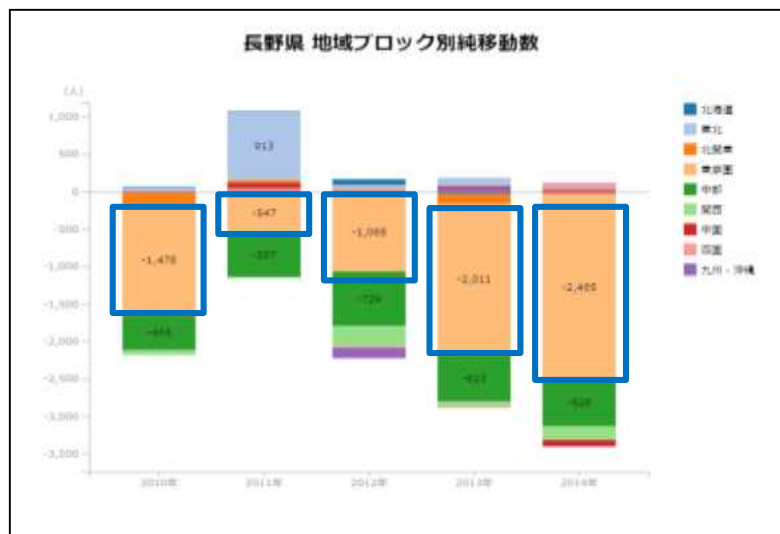
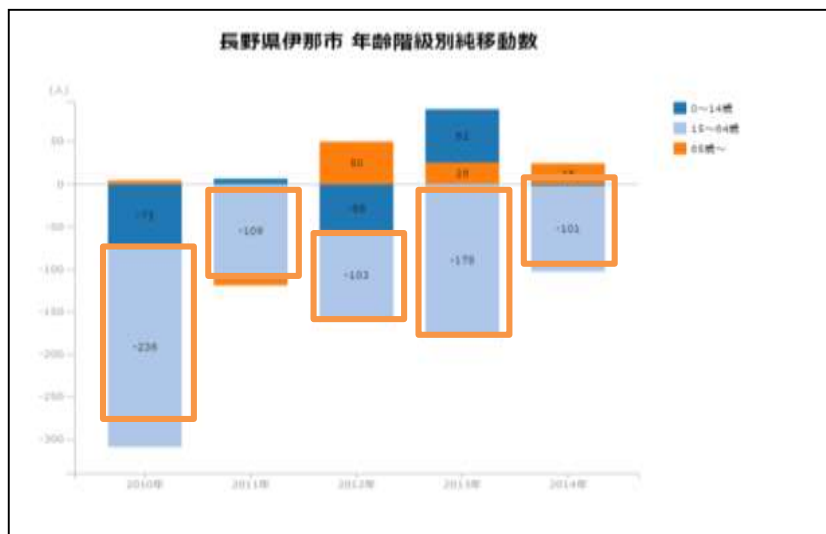
<人口減少の現状>

転出者の多くは生産年齢人口である。

年少人口及び老年人口についてはおおむね横ばい。

地域別の移動数では東京圏への転出数が多くを占めている。

中部への転出も一定程度あるが、転出数はおおむね横ばい。



⇒転出について地域経済分析システム（RESASリーサス）を使った課題の分析を実施

RESASを使った課題の分析

<年代別分析>

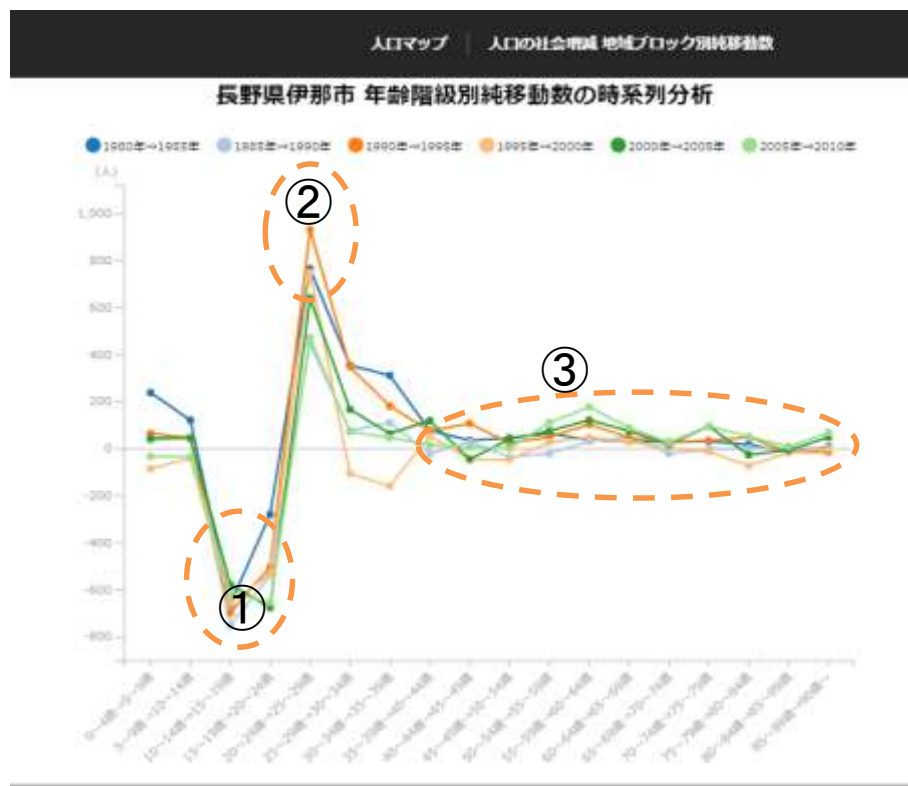
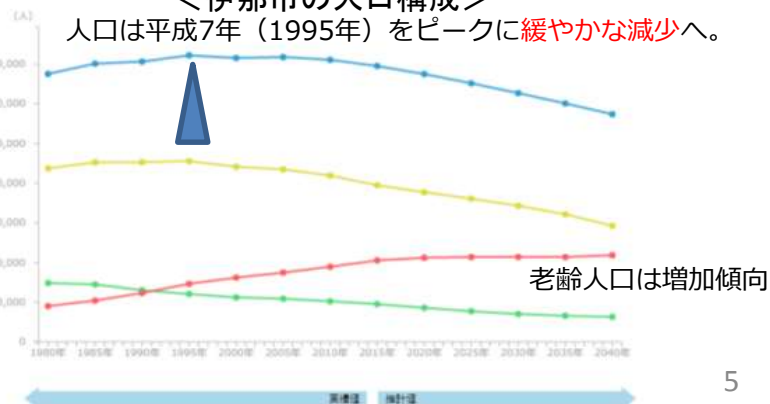
- ① 15歳～19歳・20歳～24歳に転出する傾向。
→進学等で首都圏などの都市部へ転出が多い。
- ② ただし、25歳～29歳に転入超過となる。
→地元就職するUターン者+転勤などによる増加。
- ③ その後は、転出、転入は均衡状態にある。

・転出後、伊那市に戻る数が減少している。
・さらに、その傾向が年々顕著になっている。

分析すると…

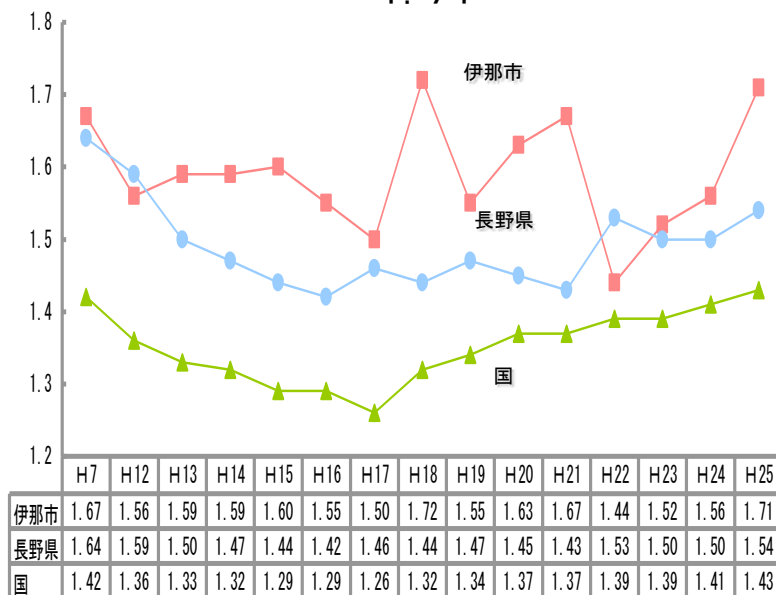
・生産年齢人口のうち転出は15歳～19歳・20歳～24歳が転出の多くを占めており、その多くが進学による転出である為、東京圏への転出が多い。
・一方、Uターンや転勤による転入もあるが、転出後に戻る数が、減少傾向であり、東京圏への転出超過増加の一因となっていると思われる。

人口は平成7年（1995年）をピークに緩やかな減少へ。



子育ての現状

伊那市の合計特殊出生率
1.71

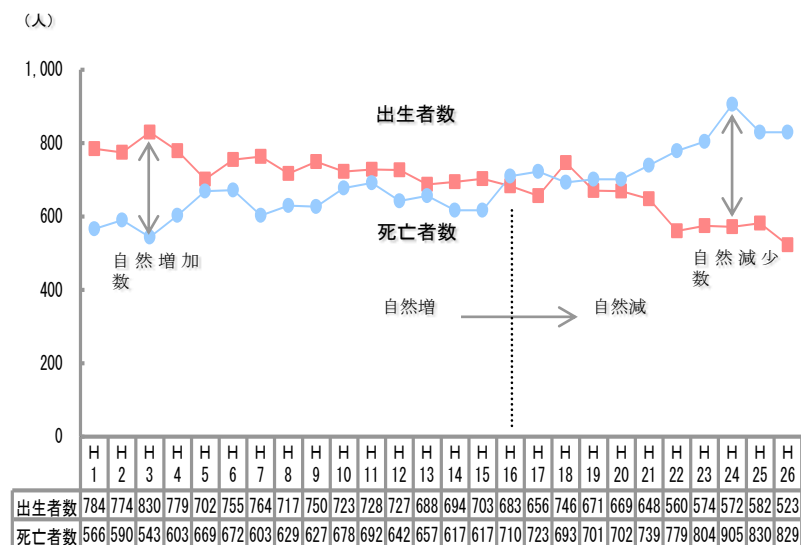


合計特殊出生率

一人の女性が、一生の間に生むであろう子どもの数を表し、15歳から49歳の女性の年齢ごとの出生率を合計した数字です。2.07が人口維持の目安です。

伊那市地方創生人口ビジョン(平成27年10月)より

出生数 10年間で減少傾向



「保育園のあり方」の問題

保育園 園児数の推移 29年度伊那市保育園整備計画5P

4月1日現在（人）

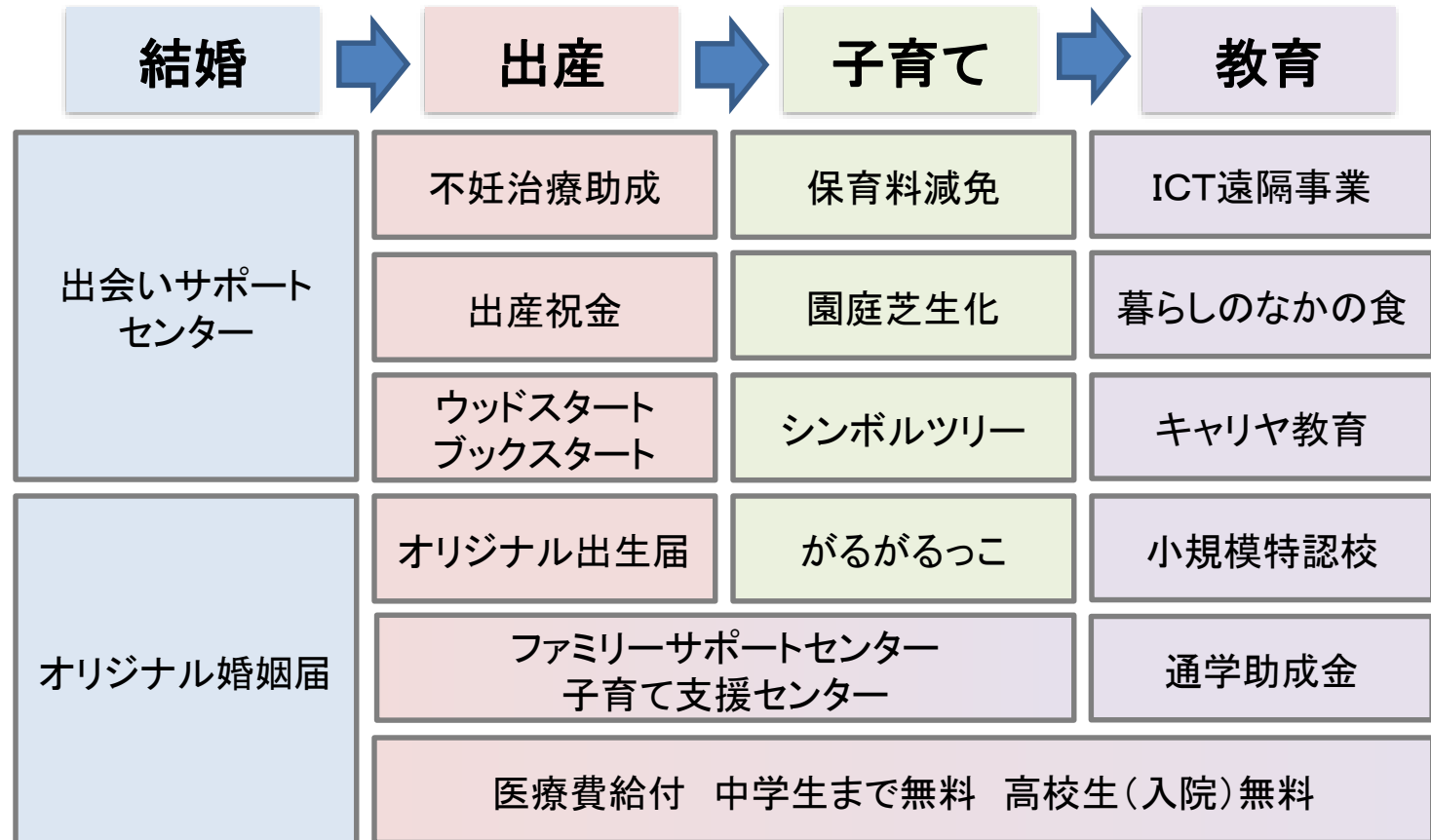
保育園名	定数	H22	H23	H24	H25	H26	H27
合 計		2,043	2,044	1,971	1,905	1,858	1,814

（内訳）

新山保育園	40	（休園）	－	－	－	再開18	26
高遠第2・第3保育園	45	25	27	25	23	23	18
高遠第1保育園	120	75	74	71	73	70	63
高遠第4保育園	60	71	69	67	51	45	44

- 公立保育園20園 園児数 名
[5年間で 人の減)
私立保育園 2園 園児数 名
私立幼稚園 1園 園児数 名
- 園舎等の老朽化
→統廃合等に対応 民間委託の検討、
- 「保育園がなくなると地域が衰退する」の
声
→「地域における保育園のあり方の見直し

人口減少への対応策① 子育て環境の充実



人口減少への対応策② 移住促進

情報発信

移住体験・移住準備

受入体制

シティ
プロモーション



田舎暮らしモデル
ハウス



移住準備住宅



地域の教科書

定住助成金
最大15万円助成

田舎暮らし
モデル地域

移住セミナー

移住体験ツアー

移住相談窓口

移住ガイドブック

特設サイト構築
公式ホームページ



生活改善
申し合わせ事項

伊那市の子育て施策

～『生きる力のある子ども』を育む魅力ある保育～



遊びの中から学ぶ保育

自然体験や生活体験が
豊かな子どもは
自己肯定感が高い



子どもの自己肯定感を高めるためには
自然体験や生活体験が不可欠！！

人・自然・物と総合的にしかかわる保育

・「がるがるっ子」を育成する

「おもしろがる」

「ふしぎがる」

「ためしてみたがる」
意欲を持って行動できる
子の育成



「シンボルツリー」の設定

木で遊び、木の四季を感じる保育園

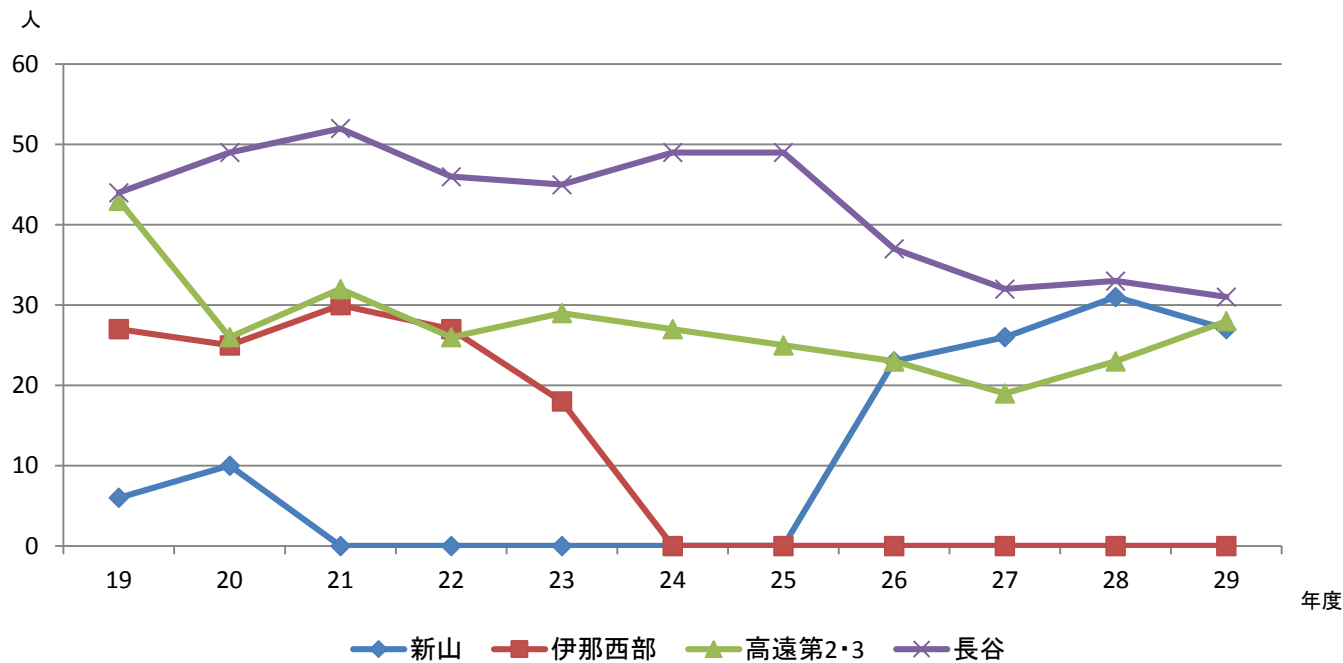
シンボルツリー一覧表（一年間察する木）

	保育園名	木の種類①
1	竜北	栃の木
2	竜西	桜
3	竜南	いちよう
4	竜東	どんぐり
6	伊那北	栃の木
7	上の原	コーヒー豆の木
8	富県	なつめ
9	新山	桜
10	美篤	こぶし
11	美篤西部	桜
12	手良	ざくろ
13	東春近中央	桜
14	東春近南部	イチヨウ
15	西箕輪	もみじ
16	西箕輪南部	桜
17	西春近北	イチヨウ
18	西春近南	イチヨウ
19	高遠第1	もみじ
20	高遠第2・3	桜
21	高遠第4	栗
22	長谷	やまぼうし



「保育園のあり方」の問題

園名	定員	年度											
		19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	
新山	40	6	10	休園					18	26	27	27	
伊那西部	60	27	25	30	25	18	休園						
高遠第2・3	45	43	26	32	25	27	25	24	24	18	21	23	
長谷	60	44	49	52	46	48	49	49	37	32	33	31	



- 園舎等の老朽化
→ 統廃合等に対応
民間委託の検討
- 「保育園 がなくなると地域
が衰退する」の声
→ 「地域における保育園
のあり方の見直し」

なんとか地域に保育所を残したい！ 保育から地域を元気に！！

「田舎暮らしモデル地域」制度



信州やまほいく認定制度
(信州型自然保育)



「田舎暮らしモデル地域」制度 を通じた支援

定住への支援

一世帯につき75,000円交付

中学生以下

子ども1人につき1万円加算

出産祝金

第1子より交付

新山保育園

H21休園→H26再開

伊那市規定

: 定員の過半数に満たない場合は
5年間休園のち廃園とする。



信州型自然保育認定制度とは

- 自然保育の社会的認知、信頼性、質の向上を担保するため「自然保育」に取り組む団体を24項目の基準で独自に認定

特化型：質・量ともに自然保育に重点を
置いている活動

普及型：他のプログラムと併せて
自然保育にも積極的な活動

自然保育への支援

- 幼児期からの自己肯定感の向上と豊かな成長の保障
- 知己における、保育・幼児教育の多様性の尊重
- 子どもがまん中の保育・幼児教育の普及
- 少子化傾向の改善

自然増・・・楽しいと思える子育てを普及

社会増・・・子育て世代の移住交流を促進

信州型自然保育認定園 高遠第2・第3保育園

休園の危機から園児倍增！
保護者と地域が一体となり
公立保育園が地域性や独自性を
できれば
地域は元気になる！

一年間で
10世帯移住！

信州型自然保育認定制度

信州やまほいく認定制度

豊かな自然と温かな地域の中で、子どもたちの“人生の根っこ”を育みます。



市町村別 認定園数
(H30年3月末日現在)

地域	市町村	認定園数 (公立 / 私立)
北信地域	8市町村	35園 (公立24園、私立11園)
	長野市 (21)、岡谷市 (2)、中野市 (1)、信濃町 (4)、新井町 (4)、高山村 (1)、木島平村 (1)、小川村 (1)	
東信地域	6市町	34園 (公立24園、私立10園)
	上田市 (2)、小諸市 (1)、佐久市 (20)、東御市 (5)、佐久穂町 (4)、軽井沢町 (2)	
中信地域	7市町村	40園 (公立30園、私立10園)
	松本市 (10)、大町市 (1)、塩尻市 (3)、安曇野市 (21)、木曽町 (1)、池田町 (2)、筑北村 (2)	
南信地域	6市町村	43園 (公立31園、私立12園)
	飯田市 (21)、伊勢市 (4)、駒ヶ根市 (13)、富士見町 (1)、箕輪町 (3)、中川村 (1)	

保育所、幼稚園、認定こども園、認可外保育施設、野外保育団体など、公立私立問わず、様々な団体が参加し学びあう、全国初の自然保育の認定制度です！

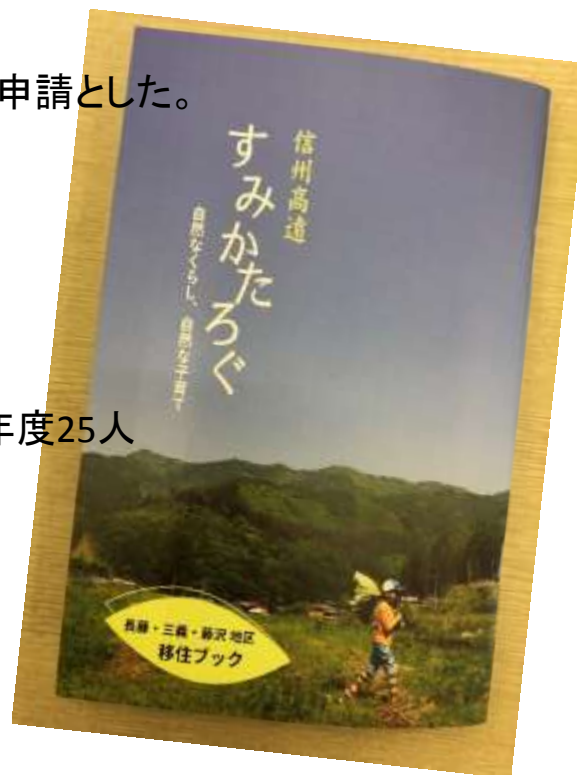
**27市町村に及ぶ
152園を認定**

各園の活動の詳細は、自然保育ポータルサイト「信州やまほいくの郷」をご覧ください。

H30年度版

高遠第2・第3保育園申請に向けて

- H27／4／27信州自然保育認定制度説明会
市内保育園・幼稚園・自然保育実施園はらぺこ
高遠第2・第3保育園と地域の未来を考え申請る会会長参加
→市内保育園園長会会議において、特に過疎化の深刻な地域
であり、特に住民からの要望の声が後押しとなり、1園のみの申請とした。
→ H27公立保育園第1号として「信州型自然保育認定制度」
(信州やまほいく)の認定を受ける
→地域独自でPR冊子「信州高遠 すみかたろぐ」発行
H28年度 園児集21人中16人が市外からの移住者。H30年度25人
- ・H30 小規模園である3園(新山・長谷・西箕輪南部)を普及型
高遠第2第3保育園を特化型に申請中



特化型



普及型

西箕輪南部保育園

信州やまほいく育認定制度
公立20園中4園申請中



【休園中】

普及型



普及型



信州やまほいく認定制度

H28普及型 → H30特化型申請中



四季折々に遊びが展開されます



春には馬耕



- 馬が田んぼを耕す



いもりさがし



子どもにとっては
自然の中の宝物さがし

おとなにとっては
子どもの中の宝物さがし

子どもをまんやかに

子どもの主体性、自己肯定
感を大切にする保育・幼児
教育が当たり前の
伊那市になればと願う

ご清聴ありがとうございました。